選奨土木遺産
我が国最古級の大型鋼Ｉ桁橋　京　橋

岡山城下町の入り口、旭川に架かる京橋の歴史は、戦国時代末期の岡山城建設の頃にさかのぼります。旭川の川筋は岡山城本丸を囲むように付け替えられ、あわせて山陽道も城下を通るようになり、京橋もこの時に、小橋、中橋とあわせて現在の位置に架けられました。

江戸時代の京橋は長さ 68 間（約 124 m）、幅 4 間（約 7.3 m）という規模で、記録によれば延宝元年（1673）から幕末までに洪水による流失などで 6 回架け替えられています。橋の西端には大門や高札場があり、番人や橋守を置いて不審者の排除や欄干の掃除を行い、城下の玄関口、交通の要衝としての面目を保っていました。また、界隈は高瀬舟、海舟の船着き場も設けられ、回漕店、問屋、木材店などが立ち並び、大いににぎわいました。

京橋は明治 18 年（1885）に架け替えられましたが、この時もまだ木造橋でした。現在の京橋は大正 6 年（1917）に架けられたもので、その後、大正 12 年に拡幅されて市内電車が走るようになりました。京橋は町の中心部にある橋として大きな親柱、両側に歩道、欄干にはガス灯が灯るという大正モダンを感じさせる豪華な橋でしたが、残念ながらその後の拡幅工事や戦時下での鉄材供出で撤去されてしまいました。

橋脚は 2 枚の平板を曲面加工して半円筒状とし、それを抱き合わせてリベット留めした鋼管橋脚で 5 本（当初 4 本、大正 12 年拡幅）で 1 組、14 列で合計 70 本あります。現在の鋼管を造る技術がなかった時代、このような工夫によって鉄管柱橋脚で架設したものは、現存する橋としては他に例がなく、しかも最古級の大型鋼Ｉ桁橋として、平成 12 年度土木学会選奨土木遺産を受賞しました。

長年、国道 2 号の主要な橋梁として役目を果たしてきた京橋も、交通量の増加と老朽化から交通渋滞を生じたため、新京橋（旧国道 2 号線・現国道 250 号）が約 200m 下流に架けられました。長い間陸路と水運の結節点としてにぎわった岡山城下の玄関口京橋も昭和 38 年（1963）幹線を外れ県道 28 号線（岡山牛窓線）となりました。今は橋の袂に立つ岡山県里程元標（復元）をはじめ岡山市道路元標、迷子しるべなどが交通、商業の中心地であったことをしのばせてくれます。

多重の鉄管柱橋脚を有するわが国最古級の大型Ｉ桁橋は、今も大正モダンを伝える。

■位置図

概　要

構造形式　鋼Ｉ型桁，RC 床版，切石舗装，杭基礎，内部にコンクリートを打設した鋼管柱橋脚（径 80 cm）
規模
橋長　131.2 m ／ 15 径間／最大径間 9.0 m ／幅員 14.9 m
着工　1915（大正 4）年 6 月 10 日
竣工　1917（大正 6）年 3 月 26 日
拡幅　1923（大正 12）年

大正 9 年に設置された岡山市道路元標

鋼管同士をつなぐアーチ、幾何学的なアングル材とあいまって、林立する橋脚が独特のモニュメントを形成。1 本の橋脚は縦に 6 個をつなぐ。